

## 研究結果報告書

ノモンハン事件に参加した満州国軍についての研究

所属： ハルビン市社会科学院 ノモンハン研究所  
役職： 所 長  
氏名： 徐 占江

『ノモンハン事件に参加した満州国軍についての研究』の研究成果は専門著作として、出版される。  
(著書の構成は、二部構成で十章、20万字。香港天馬出版株式会社より近々出版予定)

当研究は、ノモンハン事件に参加した満州国軍兵士の証言を収集、分析し、彼らの視点から事件を捉え、戦争終結までの過程と全貌をより鮮明に明らかにしようとしたものである。関係する日本、ロシア、モンゴルの資料も参照して総合的な分析を行い、今まで見落とされてきた満州国軍を対象にした専門著作となった。

### 〔第一部：総合研究と分析内容〕

第一部では、満州国軍がノモンハン事件に関わった全過程について包括的に記述しており、総述（ノモンハン事件概況、満州国軍参戦のノモンハン事件概況）、ノモンハン事件に参加する満州国軍、戦前辺境衝突における満州国軍、事件初期の満州国軍、興安騎兵師団、参戦するソ連、モンゴル軍の宣伝戦、興安騎兵師団の惨敗、ソ連/モンゴル軍に敗北した興安北警備軍及び独立混成第一旅団、ノモンハン事件後の満州国軍、ノモンハン事件に参加した満州国軍の立場、及び失敗の原因等について分析している。本部分は本研究項目の核心部分である。

### 〔第二部：ノモンハン事件に参加した者のインタビュー証言と思い出の記録〕

第二部では、興安騎兵師団、興安軍官学校教導団、興安北警備軍の軍官や兵士達の記憶と証言、事件当時の場面と事件に係わった者たちの気持ちを再現している。特に、彼らが自ら参加した戦闘場面の記憶と記述は大変鮮明であり、当時の戦争場面が聞き手の目の前に現れるように、衝撃的で、心に響くものとなっている。本項目では、ノモンハン事件に参加した満州国軍の関連写真も掲載しており、大変重要な史料価値があるものと自負するものである。

本研究は、ノモンハン事件に参加した満州国軍の立場から同事件を検証しようとする初めての研究であり、同事件以前の事柄から、事件収束後までの満州国軍すべての活動を網羅し、従来のノモンハン事件研究の空白を埋めることが出来ている。こうした意味から、この専門著作は、今後のノモンハン事件の研究に大いに役立つものと期待されるのである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名：ノモンハン事件に参加した満州国軍の表現及び失敗の原因

発表者名：徐占江

会議名：歴史を記憶し、永久に平和を保つ——ノモンハン事件75周年を記念するシンポジウム

日時：2014年5月5～6日

場所：モンゴル・ハルハ川 苏木雅日勒特博物館 (ノモンハン事件の主な戦場)

題名：ノモンハン事件中満州国軍初探

発表者名：徐占江/

会議名：第七回第七屆ウランバートル国際シンポジウム—総合研究—ハルハ川・ノモンハン事件

日時：2014年8月9～10日/

場所：モンゴル・ウランバートル外交会館

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

題名：《ノモンハン事件に参加した満州国軍の研究》

/著者名：徐占江

/出版社：香港天馬出版有限公司

/発行時期：2014年3月1日